

1 平成 30 年度 実験・実習費に関する調査の結果について

全国高等学校農場協会振興局

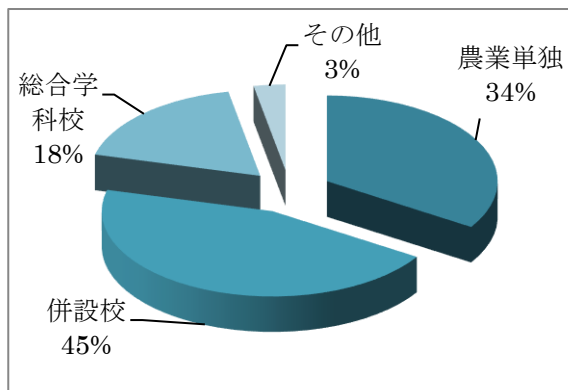
1 アンケート協力校について

アンケート協力校は 366 校（昨年度：356 校、一昨年度：357 校）であった。

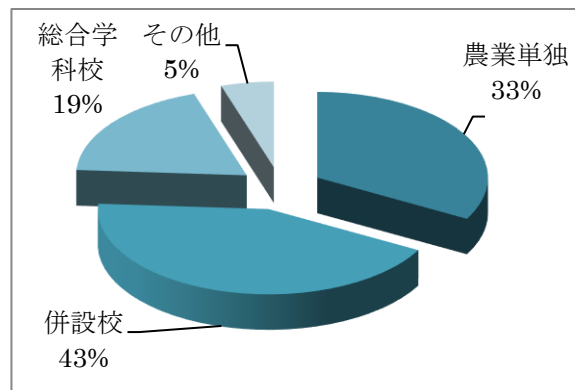
支部名	学校数	農業単独校	併設校	総合学科校	その他
北海道	22	13	5	3	1
東北	53	20	16	15	2
関東	74	19	38	16	1
北信越	34	14	8	10	2
近東	62	22	29	8	3
中国	29	7	17	4	1
四国	29	9	14	5	1
九州	63	20	36	5	2
合計	366	124	163	66	13

2 校種

昨年度とほぼ同様の割合であった。



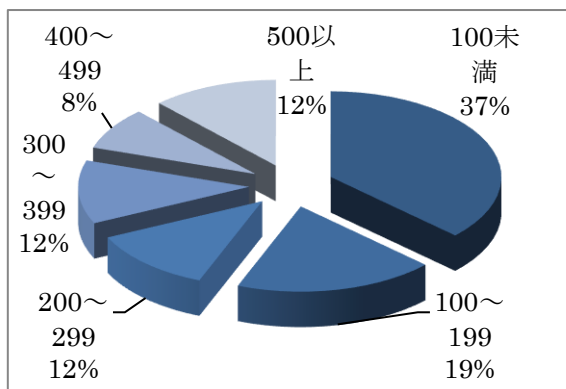
本年度



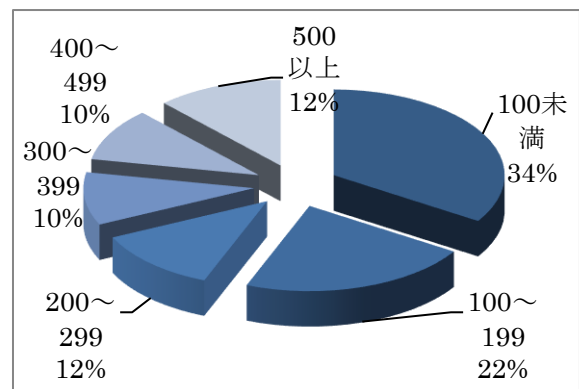
昨年度

3 学校規模

昨年度とほぼ同様の割合であった。



本年度

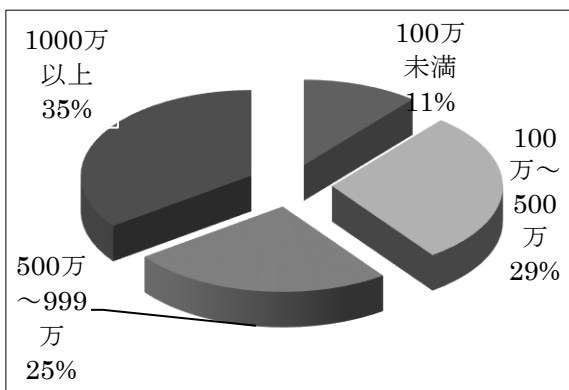


昨年度

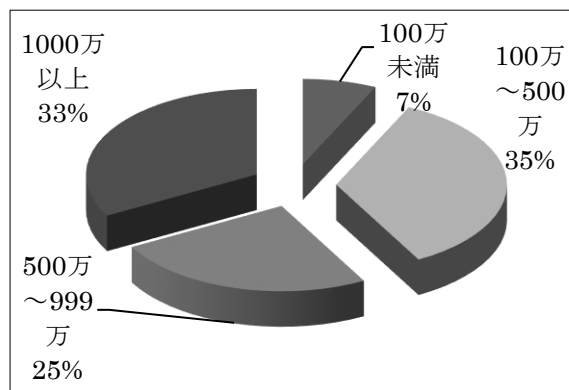
4 収入を伴う実験・実習費について

(1) 平成 29 年度農場売上金額

昨年度とほぼ同様の割合であった。



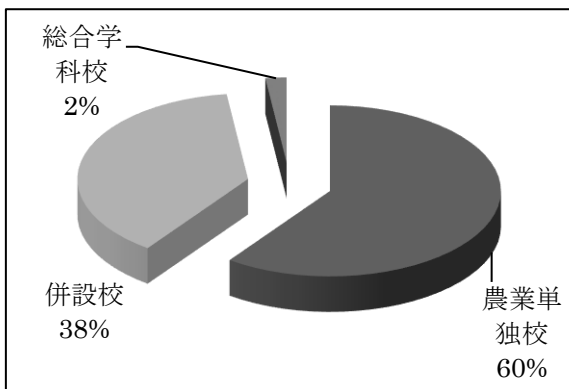
本年度



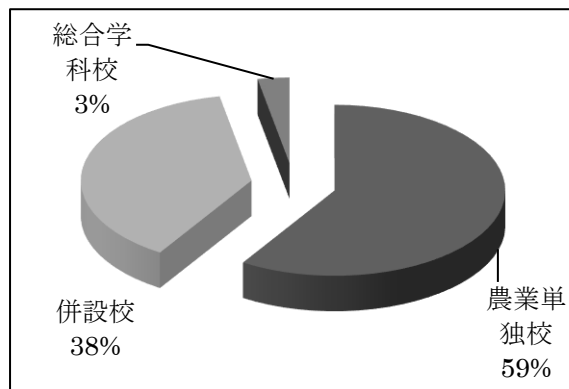
昨年度

(2) 会計規模の大きな学校の割合

昨年度とほぼ同様の割合であった。



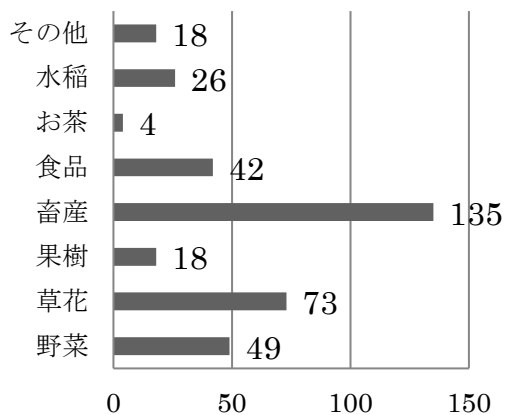
本年度



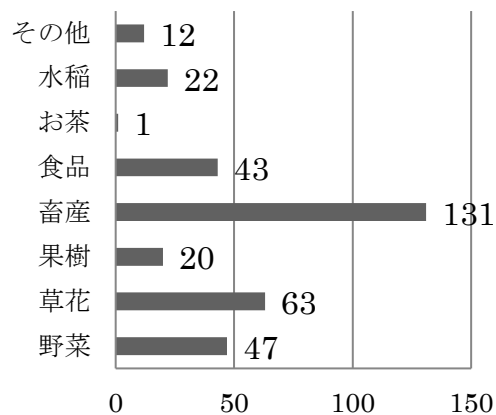
昨年度

(3) 最も収入の多い分野

最も収入の多い分野は畜産で、昨年と同様の結果になった。以下、草花、野菜、食品が続いた。



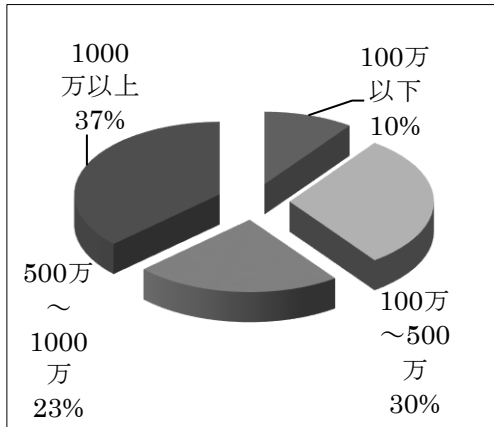
本年度



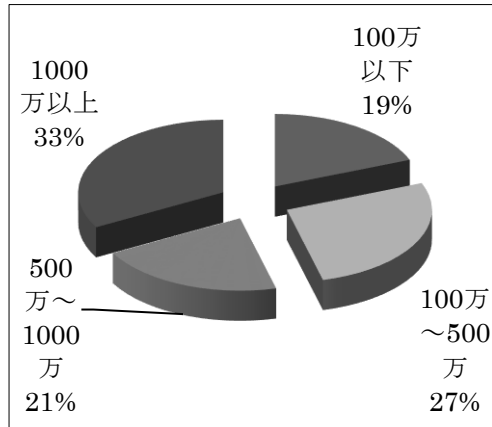
昨年度

(4) 平成 29 年度農場支出金額

「100 万円以下」の割合が減少した。



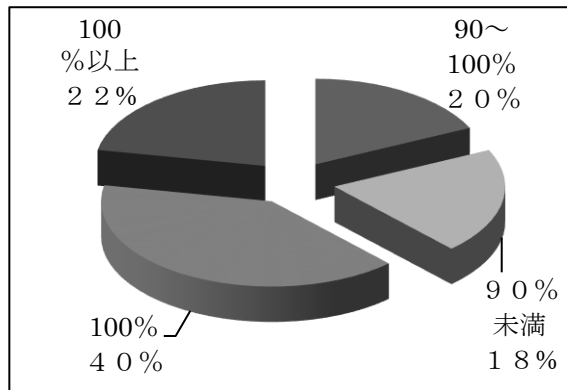
本年度



昨年度

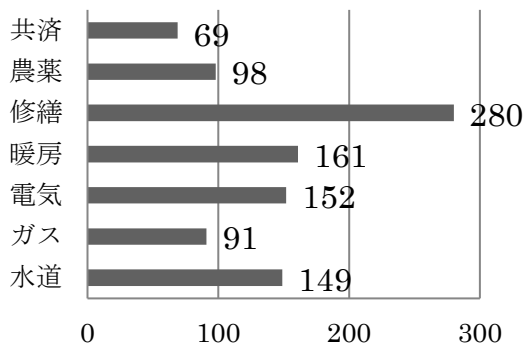
(5) 支出金額は売上金額の何%ぐらいを目安にしているか。

「100%」の割合が4割で最も多かった。

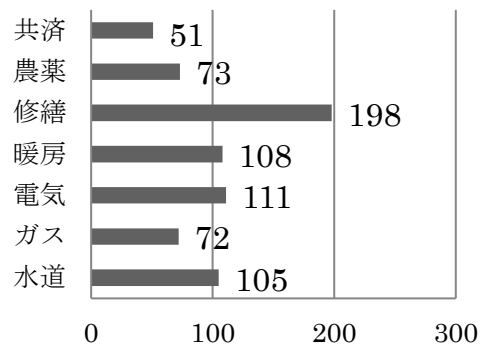


(6) 農場共通経費について

昨年度同様、「修繕費」が最も多かった。次に、「暖房代」、「電気代」、「水道代」、「農薬代」、「ガス代」の順で多かった。



本年度



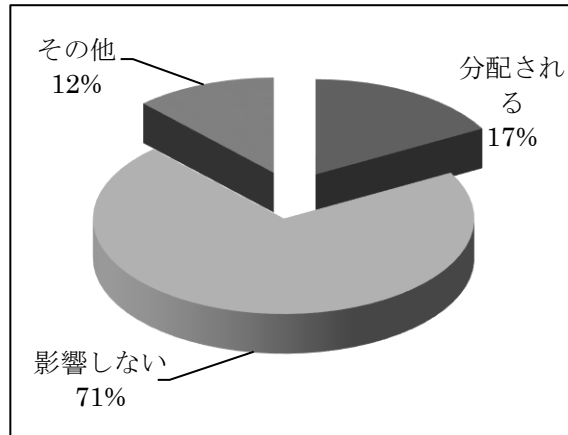
昨年度

(7) 農場共通経費に関する主な意見

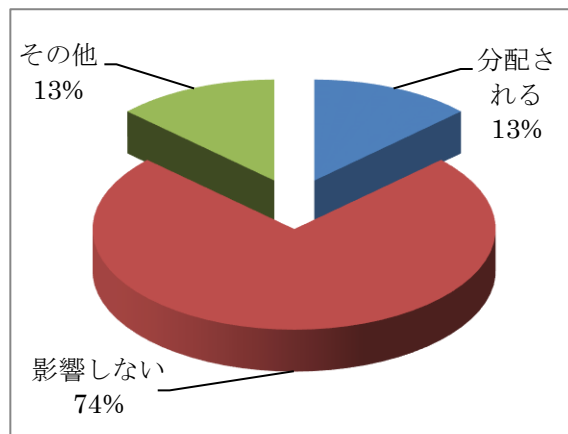
- ・施設設備及び機械、車両の老朽化により修繕費が多くかかるので、運営が厳しい。

- ・職員減や教育課程の変更等で外部委託する作業が増え、経費がかさむ。
- ・農場規模の縮小により、共通経費の捻出が困難になりつつある。
- ・畜産部は、餌代が高いため経費の運営が厳しい。

(8) 農場売上金額が予定額を上回った場合、当年度予算に増額して分配されますか。
「影響しない」が約7割を占めた。



(9) 農場売上金額が予定額を上回った場合、次年度予算に増額して分配されますか。
「影響しない」が約7割を占めた。

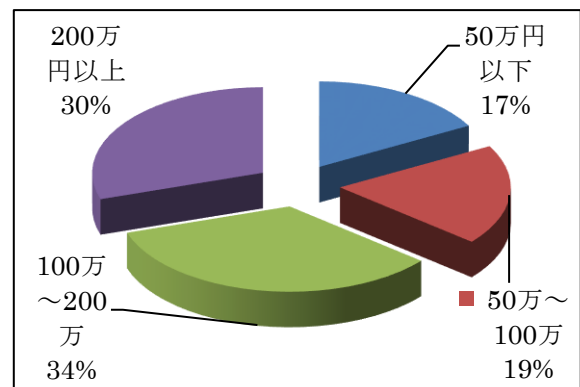
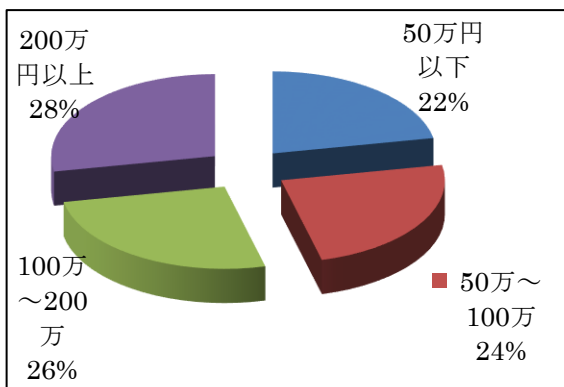


5 収入を伴わない実験・実習費について

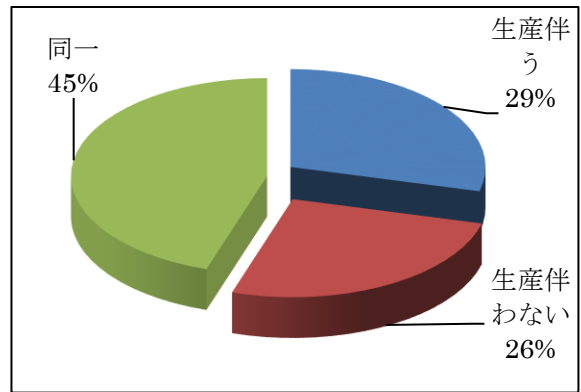
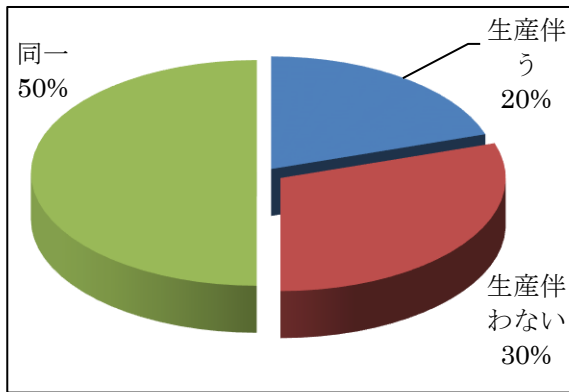
(1) 農業単独校

ア 会計規模

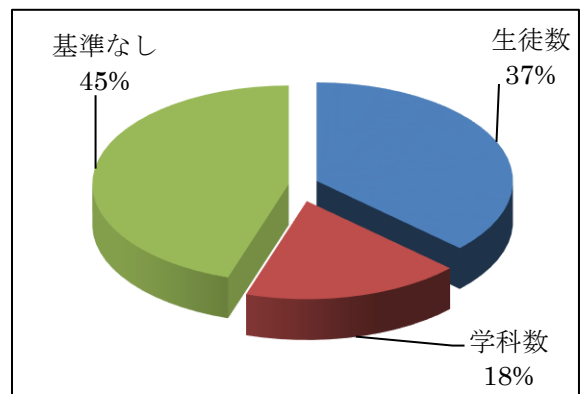
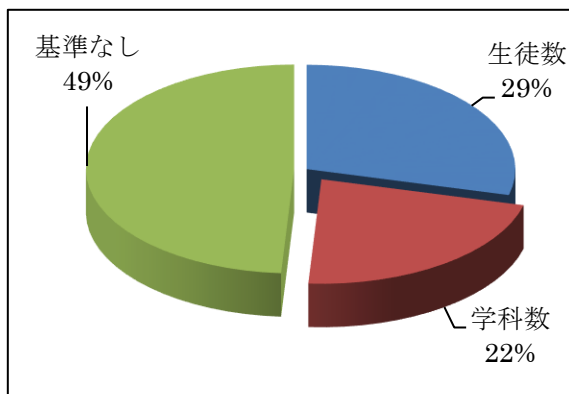
「100万円未満」の割合が増加した。



- イ 農業単独校における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）
「学科に関係なく同一」と「生産を伴わない」の割合が増加した。



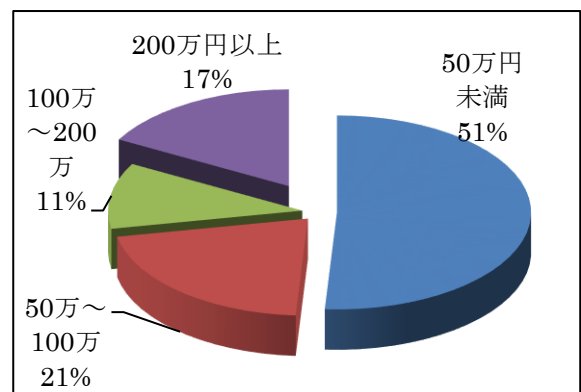
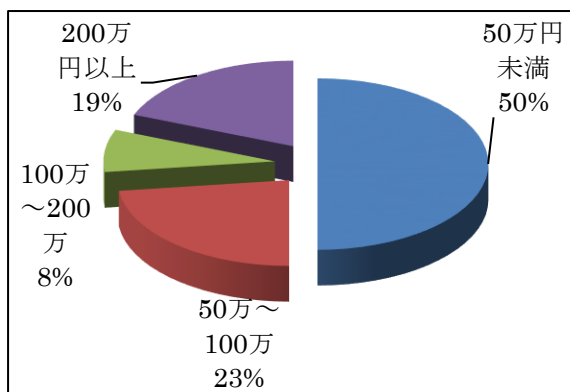
- ウ 分配基準について
「基準なし」と「学科数」の割合が増加した。



(2) 併設校および総合学科校における学科の比較

- ア 会計規模

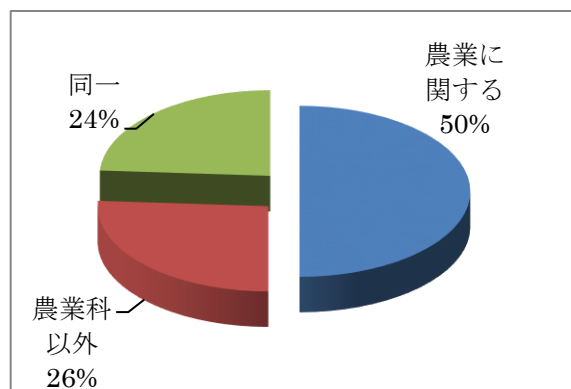
「50万円以下」が50%であり、農業単独校の約20%に比べて、会計規模が全体的に小さい。



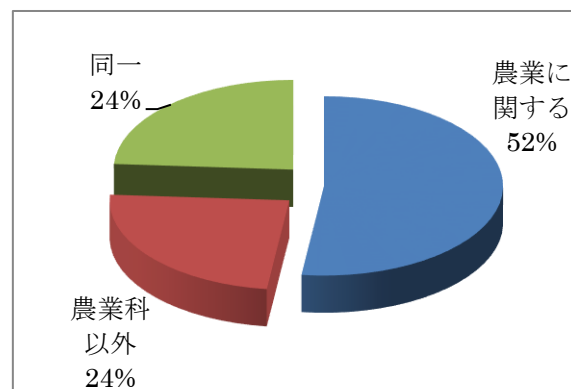
本年度

昨年度

イ 併設校及び総合学科における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）
 昨年度とほぼ同様の割合であった。

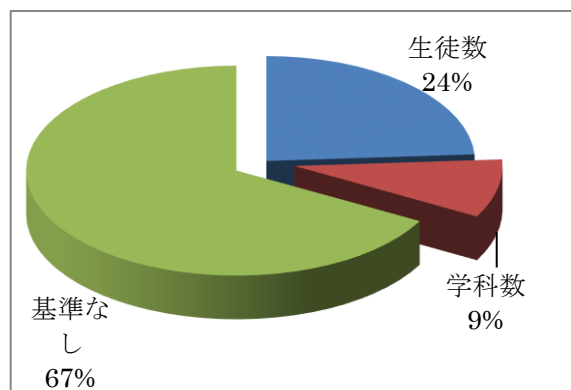


本年度

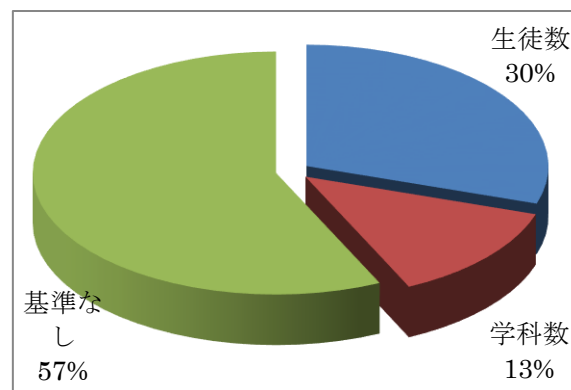


昨年度

ウ 併設校及び総合学科校の配分基準
 「基準なし」の割合が増加した。



本年度



昨年度

6 まとめ

- (1) 回収方法を改善し、昨年度よりも10校多い回答を得た。
- (2) 収入を伴う実験・実習の農場売上金額については、昨年度とほぼ同様の割合であった。
- (3) 最も収入の多い分野は畜産で、草花、野菜、食品が続いた。
- (4) 共通経費は修繕費が最も多く、暖房代や電気代、水道代、ガス代などのランニングコストに当てられるケースが多かった。また、燃料代・資材費・餌代・消費税等の値上げや施設設備、機械、車両の老朽化に伴う修繕費の増加等により、運営が厳しいとする意見が多かった。
- (5) 収入を伴わない実験・実習費では、併設校および総合学科校における学科は、農業単独校と比べ会計規模は全体的に小さい。